

1 スクール・ミッション、学校教育目標	
<p>【スクール・ミッション】 工業技術の進展に対応した実践的・体験的な教育活動や、地元企業等との連携・協働したもののづくり、資格取得等に関する教育活動を通して、高度な技術と専門性をもち、産業の持続的な発展を担い、自ら気づき考え行動できる人材を育成します。</p> <p>【学校教育目標】 技術革新やものづくりを支える将来の専門的職業人の育成及び社会に有為な職業人の育成を実現するため、次の重点目標を設定する。</p> <p>① 生徒の進路希望や特性に応じた教育の推進 ② 旺盛な気力、強靱な身体、豊かな人間性を備えた逞しい技術者の育成 ③ 正しい職業観や勤労観、創造性や勤労意欲に富む専門的職業人の育成</p>	

2 スクール・ポリシー	
<p>グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)</p>	<p>○体験的な学習や資格取得などを通して、ものづくりに必要な専門的な知識、技術、技能を身に付け、産業の持続的な発展を担う人材を育成する。 ○部活動や地域スポーツ・文化活動、生徒会活動、学校行事などを通して、健全な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図り、責任と規律に基づき、自立した行動ができるとともに、思いやりや感謝の気持ちを持った心豊かな人間性を備えた人材を育成する。 ○キャリア教育やボランティア活動などを通して、正しい職業観や勤労観、自主性や勤労意欲に富み、たくましい技術者として地域・社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>○主体的・対話的で深い学び、基礎・基本を重視した教育活動を行う。 (ICT機器の活用、グループワーク、課題研究、体験活動、プレゼン等) ○地域と連携・協働したもののづくり教育の実施、専門的な技術・技能向上への指導を行う。 (企業の技術者による実践的な指導、各種コンテストへの参加、資格・試験へのチャレンジ) 【システム機械科】マイスターによる実技指導(旋盤・溶接・仕上げ)を通じた高度な技術の習得 【電子機械科】機械系と電気系を融合した最先端の技術(FA・ロボット)の習得 【情報電子科】マイコン制御・電子工作(マイコンカー)、コンピュータ関連の技術の習得 【化学工業科】化学工場での仕事を踏まえた製造管理や分析等の実践的な技術の習得 ○充実したキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育むための指導を行う。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>○ものづくりへの興味・関心が高く、主体的に学習に取り組む生徒を募集する。 ○部活動、地域スポーツ・文化活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などに積極的に取り組む生徒を募集する。 ○規律を守り、他人を思いやる豊かな心をもち、地域に貢献しようとする生徒を募集する。</p>

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>【学校運営】本校は100年以上の伝統と歴史を誇り、「ものづくりのまち下松」を支える人材を数多く輩出し、地域の発展と活性化に寄与してきた。これまでに築き上げた「下工ブランド」を継承し、地元で必要とされる学校を目指して教育活動や地域連携を進めている。今年度も、下工祭で「くだまつものづくり企業フェア」を開催したり、下松市主催のイベントに積極的に参加する予定である。また、「やまぐち型社会連携教育事業」に取り組み、地域との繋がりを一層深めていきたいと考えている。</p> <p>【学習指導】学期ごとの欠点総数や欠点者数も徐々にではあるが減少しているため、引き続きこの傾向が継続できるよう取り組んでいきたい。また、これまで実施しているステップテストや資格取得による個別指導も引き続き実施していきたい。2・3年生については、授業以外の個人指導や課外授業を継続していきたい。タブレット端末等のICTを活用した授業展開については、多くの先生方がICT機器を利用した授業を始めている。新たな学び方を浸透させ、生徒の学習意欲の喚起に繋げていきたい。</p> <p>【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、面談や定期アンケートを活用して啓発や改善に努め、問題行動の未然防止やいじめ対策を行ってきた。問題行動ではSNSに関わる人間関係の未熟さや、規範意識の希薄さが原因のものが多い。いじめに関しては、些細なものも含めいじめと認知された事案も発生し、人間関係づくりの重要性を再確認した。今年度は、様々な交流などにより生徒のコミュニケーション能力の向上を図ってきたい。</p> <p>【進路指導】昨年度の3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。来年度も生徒の資質や能力などの特性に沿ったマッチングに視点をあてた就職指導を充実させるとともに、大学進学希望者に対しては十分な情報提供や受験対策についての指導を強化していきたい。</p> <p>【健康安全教育】健康診断結果による受診率の更なる向上を目指し、保健体育科、学級担任、部活動顧問、保護者が連携し生徒自身が健康管理に対して適切な生活習慣や行動をとることで、受診率100%を目指したい。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防対策は、個人の意識の向上が図られるような継続的・組織的な指導を心がけたい。</p> <p>【特色づくり】昨年度も新型コロナウイルスやインフルエンザに対する感染症対策を徹底しながら、下工祭やロードレース大会などの学校行事を実施した。夏は異例の暑さが続いたので、熱中症対策も十分に講じた上で体育大会を行った。今年度も感染症対策や熱中症対策に配慮しながら、学校行事を盛り上げていきたい。また、キャリアアップセミナーやホームページを通じて、本校の特色や地元への貢献度、就職率の高さなどの情報を中学校や地域に向けて積極的に発信していきたい。</p> <p>【業務改善】教職員の意識改革や学校運営の進展に伴い、学校行事や部活動などの活発化が進み、時間外在校等時間が増加傾向にある。このような課題に対応するため、年休の消化や代休の取得などを積極的に推進し、働き方改革を進めたいと考えている。また、業務分担の適正化を図り、働きやすい職場環境の構築に努めたい。授業や業務でICT機器を活用する教員が増えてきたが、学校全体の教育力を強化するために、研修への積極的な参加を促したい。</p>	

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 重点努力目標……地域産業を担う人材の育成 『凡事徹底』</p> <p>(1)【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 ・学習意欲の向上と学習習慣の確立、ICTを活用した授業改善 ・多彩なカリキュラムによるキャリア教育の充実 ・外部人材活用による技能の向上と資格取得指導の充実</p> <p>(2)【生徒指導等】人間力の向上 ・道徳心の育成、下松工生の誇りの醸成 ・自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の育成 ・人間関係の構築における関わり方の改善指導</p> <p>(3)【校務分掌・その他】教職員の協働体制による組織力の向上 ・各分掌や各学科、各学年の目標管理による共通理解と協働実践 ・コミスクを活かした諸課題の解決への協働と外部評価を生かした学校改善 ・抜本的な志願生徒減少対策</p> <p>2 チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席等0)5割以上」 「ステップテスト平均点7割以上」</p>	

5 自己評価					6 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析		
総務部	・保護者との信頼関係の確立 ・地域との連携教育の実践推進	・学校ホームページのタイムリーな更新により、学校からの情報発信に努める。 ・学校開放日の設定や、地域の行事等へ積極的に参加する。	HPの更新回数が、 4:年40回以上 3:年30回以上 2:年20回以上 1:年20回未満	3	・ホームページについては、適時更新を行った。行事ごとに更新することができた。 ・ホームページをより閲覧しやすくなるように工夫した。		
					<p>・行事ごとに更新していることは評価できる。 ・下工祭やボランティア活動に取り組んでいる。今後も積極的な取組を望む。 ・ホームページはわかりやすく、定期的に更新されている。今後はInstagramも行うとの事なので楽しみにしている。</p>		
					A		

教務部	学習習慣の確立と基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を大切にし、家庭学習に取り組むよう指導する。まずは、検査期間中はしっかりと学習に取り組むよう検査発表中の学習計画表配付等により、学習習慣の確立を図り、欠点保有者や欠点総数を減らす。</li> </ul>	追指導対象者クラス平均人数と追認対象者数が、 4: 追指導対象者クラス平均人数1人以下かつ追認対象者3人以下 3: 追指導対象者クラス平均人数2人以下かつ追認対象者5人以下 2: 追指導対象者クラス平均人数3人以下かつ追認対象者7人以下 1: 追指導対象者クラス平均人数3人以上または追認対象者8人以上	2	1学期末時点での追指導対象者19人で1クラスあたり1.6人、2学期末時点での追指導対象者は26人で1クラスあたり2.3人であった。総欠点数は、1学期末時点では24、2学期末時点では38であった。1学期末時点での追指導対象者は昨年度より減少したが、2学期末時点での追指導対象者は昨年度より増加した。学年末検査においては、目標達成できるよう指導して参りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を参観した際、生徒は熱心に学習に取り組んでいた。</li> <li>低学力の生徒に基本をアドバイスする必要がある。</li> <li>生徒が自ら進んで学習に取り組むよう声かけをしてほしい。</li> <li>教科によっては、生徒がついていくことができないものがあったようである。</li> <li>引き続き努力をお願いしたい。</li> </ul>	B
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。</li> </ul>	ICTを活用した授業を展開している教員が、 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	4	授業を担当する教員を対象にしたアンケートによると(回収率60.4%)、ICTを活用した授業を展開している教員は92.3%で、そのうち、66.7%が少なくとも週当たり数回は利用している。今後さらにも、多くの場面でICTを活用し、生徒の学習意欲の向上を図ることができるよう努めて参りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの取り組みが進んでいることを評価する。まだ使用されていない教員の数や理由が気になるようになった。</li> <li>今後も、時代に合った学習方法を取り入れてほしい。</li> </ul>	A
生徒部	道徳心の育成、下松工生の誇りの醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム等における各委員活動や、学校行事における活躍の場の設定を行う。</li> <li>面談やアンケート等を通して生徒理解を深める。</li> <li>あたりまえ向上委員会と協力し、生徒の資質向上を目指す。</li> </ul>	生活アンケート結果において「学校に誇り」、「自分のことがすき」の割合が 4: 7割以上 3: 5割以上 2: 3割以上 1: 3割以下	4	各委員会の活動や各行事での取り組みは少しずつ積極的になっているが、委員会間や生徒間で差がある。学校全体が同じ方向を向くよう来年度はスローガン等を設定し、生徒の更なる資質向上に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が生徒会活動などを通して学校運営に参画することで、自分達の学校という意識を高めることができる。</li> <li>全員に役割の機会を与え、みんなの為に行動することの大切さを教えてほしい。</li> <li>歴史ある下松工業高校への醸成を引き続きお願いしたい。</li> </ul>	A
	開発的生徒指導によるいじめ未然防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止に対する体制づくりを強化する。</li> <li>いじめアンケートの内容を見直し、早期発見に努める。</li> <li>いじめのとらえ方や認知について教職員の共通理解を図る。</li> </ul>	4: いじめ防止基本方針の見直しを行い、研修会を実施した。 3: いじめ防止基本方針の見直しを行い、職員や生徒・保護者に周知した。 2: いじめ防止基本方針の見直しを行った。 1: いじめ防止基本方針の見直しを行っていない。	3	いじめアンケート・生活アンケートや担任による個人面談の情報を活用し、いじめに繋がる事象を初期段階で把握し対応ができてはいるが、それでは上がってこない事象もあると思われる。来年度も教員間でのいじめに対する共通認識を強化し、いじめ根絶に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業間の休憩時間を含めて巡視を検討する必要がある。</li> <li>いじめの未然防止と根絶に向けて、引き続き取り組んでいた。</li> <li>いじめの数がどのくらいあるのかわからないが、積極的に解決に向けた取組を進めていた。</li> <li>社会に出る前に倫理観をしっかり学べるよう指導してほしい。</li> </ul>	A
	教育相談(特別支援)体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任からの情報をもとに気になる生徒を早めに把握し、関係教員と連携して面談やケース会議を行う。</li> <li>SCとの面談を仲介し専門的な助言を得られるようにする。</li> </ul>	4: 面談や情報共有が十分に行われ、生徒理解・指導に役立った。 3: 一応の取り組みが出来、ある程度成果があった。 2: 面談や情報共有はあまり出来ず、状況把握が不十分 1: 面談や情報共有が全く出来なかった。	4	担任や養護教諭からの情報をもとにケース会議を開き、SCの活用を促すことで連携が図れた。また、職員会議等で生徒の状況を全職員で把握し、情報共有ができた。教員に相談しづらいこともあるため、外部の相談機関も発信していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる生徒の把握や対応をどのくらいしているのかわからないが、いじめに繋がらないよう今後も積極的な取組を望む。</li> <li>悩んでいる生徒に寄り添って、不登校にならないよう相談しやすい環境を作ってほしい。</li> </ul>	A
保健体育部	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,500m(1,000m)持久走を実施することにより、持久力・忍耐力をつける。</li> </ul>	4: 自己ベスト3回更新が60%以上 3: 自己ベスト3回更新が50%以上 2: 自己ベスト3回更新が40%以上 1: 自己ベスト3回更新が40%未満	4	距離を短縮したこともあり、生徒の取り組み方が向上した。毎日記録をとり振り返りの習慣ができてきた。3年生は、2学期後半からの体力の低下は致し方ないが、生徒自らトレーニングする者が増えたことは喜ばしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>距離を短縮したことで、生徒の取り組み方が向上したことは評価できる。</li> <li>今後も体力向上に努めていた。</li> <li>走るのが苦手な生徒にとっては大変だと思うが、体力向上のために今後も継続してほしい。</li> </ul>	A
	心身の健康の自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断結果による受診率の向上を目指す。</li> <li>保健だけでなく心身の健康の自己管理ができるように啓発する。</li> <li>学級担任・部活動顧問・保護者等と連携し、保健指導の充実を図る。</li> </ul>	4: 受診率が60%以上 3: 受診率が50%以上 2: 受診率が40%以上 1: 受診率が40%未満	2	担任等や部活動顧問等と連携したり、保健だけでなく生徒や家庭に啓発したり、受診票の再発行をしたりして、受診啓発をしたが、昨年度より受診率が低下した。今後も連携による受診啓発を継続し、早期発見・早期治療の習慣化を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 受診率: 47.0% (R6:57.5%)</li> <li>* 学年別: 1年59.8%、2年37.7%、3年37.5%</li> <li>* 疾患別: 眼疾患42.9%、視力1.0未満59.2%、耳鼻科疾患58.8%、う歯37.4%、歯垢47.1%、歯肉45.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>う歯の受診率を向上させる必要がある。</li> <li>啓発活動がされていると思うが、早期治療の必要性に繋がってほしい。</li> <li>生徒が受診票を持ち帰っていないことが多いと思うので、親にも伝わるようにしてほしい。</li> </ul>	B
進路指導部	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な就職指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアライフやLHR、ガイダンスを利用し、個々の特性や適性を理解させ、企業情報の提供を行う。</li> <li>積極的に個人面談や三者懇談を行い、意識を高め、希望する就職を実現させる。</li> </ul>	4: 1次試験の合格率が95%以上 3: 1次試験の合格率が90%以上 2: 1次試験の合格率が85%以上 1: 1次試験の合格率が85%未満	4	ここ数年、各企業の人材不足が深刻で採用意欲も旺盛であることが高い合格率を獲得できた要因の一つではある。また、生徒も就職試験に向かって真摯に取り組んだ成果でもある。今後、求人数が減少しても合格率が維持できるように、キャリア教育等を充実していきたい。1次試験結果108/110(98.2%)最終110/110(100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職試験前に熱心に指導していただき感謝している。厳しく指導してもらったことで、意識が変わったように思った。</li> <li>引き続き努力をお願いしたい。</li> </ul>	A
	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な進学指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らが希望進路先を明確にできるように、個人面談、三者懇談、進学説明会などで適切な情報を提供する。</li> <li>進学課外などを実施することで、希望の進路先に進める能力を高める。</li> </ul>	4: 希望進路先への決定が100% 3: 希望進路先への決定が90%以上 2: 希望進路先への決定が80%以上 1: 希望進路先への決定が80%未満	3	成績の関係で受験できていない進学希望の生徒が1名いる。その他の生徒は希望の進路先に合格した。早い段階からの意識づけや各大学、専門学校の入試制度等の情報提供を計画的に発信ができた。進学する生徒数が少ないために十分に可能であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望の生徒も希望進路先に行けるよう今後も支援してほしい。</li> <li>取組を評価したい。</li> </ul>	A

工業	資格取得指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動の大会期日を調査し、資格試験日を生徒に提示することにより、生徒一人一人に資格取得の予定を立てさせ、資格取得の意識付けをさせる。</li> </ul>	4:ジュニアマイスター得点が3000点以上 3:ジュニアマイスター得点が2700点以上 2:ジュニアマイスター得点が2400点以上 1:ジュニアマイスター得点が2400点未満	2	1月23日現在、全校生徒のジュニアマイスター合計得点が1896点である。まだ検定が終わっていない等の理由で今後追加されるであろう得点が580点見込まれるので、年度末の合計得点は2476点となる予想である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>そもそも得点数のハードルが高いかはわからないが、基準値の見直しが必要かと思われる。</li> <li>親はジュニアマイスターについてよくわかっていない。</li> </ul>	B
	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学とキャリアアップセミナーで、科の紹介内容の充実を図る。</li> </ul>	中学生へのアンケートで、「ためになった」「楽しかった」など、良好な回答が 4: 9割以上 3: 8割以上 2: 7割以上 1: 7割未満	4	96.5%の中学生が「ためになった」「楽しかった」など、良好な回答であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き努力され、興味をもつ中学生の受験者数の増加に繋がるようお願いしたい。</li> <li>下松工業高校に行きたいと思えるような体験入学にしてほしい。</li> </ul>	A
1学年	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る(5分前行動)」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりとできるように指導する。</li> </ul>	4: 皆勤が50%以上 3: 皆勤が45%以上 2: 皆勤が40%以上 1: 皆勤が40%未満	1	2学期末時点で皆勤率は27.4%である。達成率はかなり低くなっている。体調管理をすることも社会人になれば大事なことで伝えていく。入学当初に比べて挨拶などのあたりまえとされている行動は行えるようになり、続けられるように指導していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年生の時に基礎をしっかりと教えてほしい。</li> <li>皆勤率を上げることも大事だが、挨拶応答ができる環境作りの向上をお願いしたい。</li> <li>校外でも挨拶が出来れば、地域とのつながりが増え受験倍率の向上に繋がる。</li> </ul>	B
	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業を大切にできるよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。</li> <li>家庭学習の時間が増すように指導する。</li> </ul>	4: ステップテスト平均点7割以上 3: ステップテスト平均点6割以上 2: ステップテスト平均点5割以上 1: ステップテスト平均点5割未満	3	第5回終了時点で学年平均は31.4点(50点満点)で平均点6割以上になる。内訳はM科30.0点、S科33.1点、I科32.8点、O科は29.7点。平均点が7割以上になるクラスは少なく、学習習慣を身に付けさせることが課題である。学習の大切さを学校でも伝え続け、ご家庭でも伝えていただくようお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣が定着するよう指導してほしい。</li> <li>今後も努力をお願いしたい。</li> </ul>	A
2学年	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>凡事徹底を基本に、「体調管理」「時間を守る(5分前行動)」「決まりを守る」「挨拶応答」「提出期限厳守」がしっかりとできるように指導する。</li> </ul>	4: 皆勤が50%以上 3: 皆勤が45%以上 2: 皆勤が40%以上 1: 皆勤が40%未満	1	2学期末時点で皆勤率は30.0%である。昨年度の同時期よりは改善傾向にあるが、達成率はかなり低くなっている。コロナウイルスの蔓延により休むことに抵抗がなくなってきたり、感染防止のため無理せず休むように指導せざるを得ないことが原因と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>休みがちな生徒が少なくなるよう指導してほしい。</li> <li>具体的方策として挙げられている内容は、全国的にも共通する課題であり、引き続き継続した取組をお願いしたい。</li> <li>校外でも挨拶が出来れば、地域とのつながりが増え受験倍率の向上に繋がる。</li> </ul>	B
	基礎学力の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業を大切にできるよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。</li> <li>様々な場面で進路選択の意識が高まるような指導をする。併せて家庭学習の定着を促す。</li> </ul>	4: ステップテスト平均点7割以上 3: ステップテスト平均点6割以上 2: ステップテスト平均点5割以上 1: ステップテスト平均点5割未満	4	第5回終了時点で学年平均は36.3点(50点満点)である。昨年度の同時期よりも全体の平均点1.6点上昇しており、平均点が7割を超えるクラスも2クラスあった。この調子で基礎学力の定着を図っていききたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生になるまでに勉強する事の大切さを教えてほしい。</li> <li>取組を評価できる。</li> </ul>	A
3学年	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談や個別指導を充実させるとともに、進路選択に関わる情報提供の充実を図る。</li> </ul>	4: 希望に添った進路情報の提供が十分出来た。 3: 希望に添った進路情報の提供が出来た。 2: 希望に添った進路情報の提供があまり出来なかった。 1: 希望に添った進路情報の提供が全く出来なかった。	4	学校評価アンケートの「進路指導は適切に計画指導されている」の質問では、肯定的な回答の割合が生徒94%、保護者91%であった。また今年度は履歴書を一部の企業を除きすべてパソコンで作成した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が就職希望先を決めるにあたり、さまざまな方法が示されており、わかりやすかったようである。</li> <li>努力されていることを評価したい。</li> </ul>	A
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望進路実現のため、自主学習・家庭学習の定着を促す。基本的な生活習慣が定着することが重要なため、改めて指導する。</li> <li>自己有用感につながるよう資格取得を奨励・支援する。</li> </ul>	4: ステップテスト平均点7割以上 3: ステップテスト平均点6割以上 2: ステップテスト平均点5割以上 1: ステップテスト平均点5割未満	2	学年平均は29.9点(50点満点)である。昨年度よりも4.1ポイント増加したが6割には届いていない。平均点6割を超えているクラスが2クラス5割を超えているクラスが2クラスであった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値としては目標に達していないが、努力されたことは評価したい。</li> <li>欠点でなければよいという考えから、自主的に学習に取り組まない生徒に対して、厳しく指導してほしい。</li> </ul>	B

業務改善	日常的な業務	・全教員の元気ややる気の生まれる職場の人間関係づくりを進める。 ・業務のペーパー化を進め、作業効率の向上や人材育成の推進、業務分担の適正化を図る。	4: 教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が70%以上 3: 教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が60%以上 2: 教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が50%以上 1: 教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が50%未満	4	・教職員による学校評価において、「分掌業務が組織的に行われている」という項目の肯定的回答率は70%であり、昨年度より9%下がった。一部の教員に負担がかかっていることが原因と考えられるので、分掌の配置や業務分担の見直しが必要がある。 ・各教員が意欲を持って業務に取り組んでいるものの、業務量が多く、多忙な日々が続いている。分掌間の連携を強化し、作業効率の向上に努めたい。	・先生方はとても忙しく大変だと思うので、負担を心配している。 ・教職員の負担軽減に繋がる取組をお願いしたい。	A
	学校の組織等	・一人1台端末によるICT機器の活用を推進する。 ・校内外の研修等への積極的な参加を促す。 ・全教員が年間1回以上研究授業を参観する。 ・若手教員を主任等へ登用する。	4: 計画した研修や授業参観を実施した教員が9割以上 3: 計画した研修や授業参観を実施した教員が6割以上 2: 計画した研修や授業参観を実施した教員が3割以上 1: 計画した研修や授業参観を実施した教員が3割未満	3	・ICT活用推進リーダーが他の教員をサポートすることで、授業や業務における各教員のICT活用技術は着実に向上している。 ・校内研修は約9割の教員が参加し、内容も充実していた。一方で、「授業見学、研究協議」の項目における肯定的回答率は57%とやや低く、授業改善を図るために各教員が主体的に取り組む必要がある。	・今後もICTを活用しながら指導してほしい。 ・引き続き努力をお願いしたい。	A
	勤務状況	・時間外在校等時間の上限時間遵守を呼びかける。 ・年休や代休の取得を呼びかける。 ・ノー残業デーの年5回設定と実施。	4: 年間の時間外在校等時間が月45時間以内の職員の割合が80%以上 3: 年間の時間外在校等時間が月45時間以内の職員の割合が70%以上 2: 年間の時間外在校等時間が月45時間以内の職員の割合が60%以上 1: 年間の時間外在校等時間が月45時間以内の職員の割合が60%未満	2	・定期考査中の「ノー残業デー期間」には、ほとんどの教員が勤務時間終了と同時に退校し、徹底できた。 ・時間外在校等時間月45時間以内の職員の割合は、12月末時点で69.8%で、主な理由の約8割が部活動指導によるものである。運動部の大会前や文化部のコンテスト、コンクール前は時間外在校等時間が増加する傾向にあるが、部活動運営方針を遵守し、削減に努めたい。	・以前から教職員の残業時間は問題になっており、教職員を目指す者も少なくなっている中で、先生自身のワークライフバランスを大事にしてほしい。 ・地域移行等進み中、ノー残業ができる環境作りをお願いしたい。 ・意識して取り組まれていると思うが、取組事例があれば紹介していただきたい。	B

7 学校評価総括(取組の成果と課題)	
<p>今年度も、学習活動や学校行事、部活動に主体的に取り組み、1年生のインターシップや2・3年生の進路合同説明会を通じて、職業観や勤労観を育む成果が得られた。また、地元企業と連携した「やまぐち型社会連携教育推進事業」では、環境をテーマに研究を進めた。</p> <p>①ものづくりを通じた地域に開かれた学校づくり、②適切な進路指導と希望進路の実現、③体力の向上といった面では高く評価していただいた。一方で、①基本的な生活習慣の確立、②学習習慣の確率と基礎学力の向上、③心身の健康の自己管理などの課題も残った。</p> <p>来年度は、地域への情報発信と連携をさらに深めて地域から信頼され愛される学校づくりを進め、志願者増加に繋げていきたい。</p> <p>1 重点努力目標…地域産業を担う人材の育成 「凡事徹底」</p> <p>(1)【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得</p> <p>基礎学力の向上に向け、生徒の意識改革や教員の授業改善に努めている。追指導考査対象者は1学期末は昨年度より3名減少したものの、2学期末については昨年度より7名増加した。1学期末・2学期末のいずれも欠点総数は少数に抑えられているものの、追指導考査対象者が減少するよう指導をさらに充実して参りたい。また、これまで実施しているステップテストや資格取得による個別指導も引き続き実施していきたい。</p> <p>ICTを活用した授業改善の取組も徐々に進んできており、機器の様々な活用方法を各教員が検討し活用が進んできている。教員間のICT活用方法を互いに教え合い、情報共有も行われている。さらなる利用方法も検討していきたい。</p> <p>(2)【生徒指導】人間力の向上</p> <p>予定されていた行事は予定通りできた。特に文化祭は生徒会を中心に企画から取り組み自己肯定感の向上につながった。全校集会においては各委員会からの発信の場を増やせる余地はあると感じたため、時間設定等改善していきたい。一方で、生徒の問題行動については昨年度よりもやや減少傾向にあるが、社会規範に反する事案も発生している。社会人に通じる学校内外での在り方の教育を強化したい。いじめに関しては毎月のおいじめアンケートや毎学期の個人面談により早期発見に努めた。件数も減少傾向ではあり、不登校などの重大事案にいたる案件は無かった。今後は、問題行動の未然防止に努めるとともに、保護者やSCと連携しながら、生徒の安心・安全な学校生活のための環境整備や対応進めていきたい。</p> <p>(3)【校務分掌・その他】教職員の協同体制による組織力の向上</p> <p>学校行事や部活動、生徒指導において、全教職員が責任感を持って業務に取り組む姿勢が見られた。しかし、一部の教職員に業務が集中したり、特定の時期に業務量が増加する状況も課題として残った。そのため、分掌配置や業務分担の適正化を進め、組織として効率的に機能を整えることが重要である。教職員課の連携をさらに強化し、多様な役割を柔軟に担える人材育成と組織づくりを推進し、持続可能な学校運営を目指していきたいと考えている。</p> <p>2 チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席等)0割以上」「ステップテスト平均点7割以上」</p> <p>今年度もインフルエンザに罹患した生徒は出席停止の扱いとしたが、発熱や体調不良で欠席する生徒に加え、遅刻や早退をする生徒も多く、皆勤率は低下した。生徒の出席率に対する意識や行動への意欲が弱まっている印象を受ける。今後も担任や部活動顧問を中心に声掛けや心身の健康向上に繋げていきたい。ステップテストの平均点はクラス間で差が見られるものの、基礎学力の定着は社会生活の基盤となる重要な要素である。根気強く指導を重ね、学力の向上に努めたい。</p>	

8 次年度への改善策	
<p>【学校運営】本校は100年以上の伝統と歴史を誇り、「ものづくりのまち下松」を支える多くの人材を育成し、地域の発展に寄与してきた。これまでに築き上げてきた「下工ブランド」を継承しつつ、地元と愛され必要とされる学校を目指し、教育活動や地域連携を一層推進している。今年度も、下工祭での「くだまつものづくり企業フェア」の開催や、下松主催のイベントへの積極的な参加する予定しており、地域との結びつきをさらに深めたいと考えている。こうした取組を通じて、コミュニティー・スクールとしての役割を着実に果たしていきたい。</p> <p>【学習指導】学期ごとの欠点総数や欠点者数が徐々に減少するよう、様々な指導をさらに充実して参りたい。また、これまで実施しているステップテストや資格取得による個別指導も引き続き実施していきたい。また、基礎学力の充実を図る指導も引き続き行っていく。2・3年生については、授業以外の個人指導や課外授業を継続していきたい。タブレット端末等のICTを活用した授業展開については、多くの先生方がICT機器を利用した授業を始めている。新たな学び方を浸透させ、生徒の学習意欲の喚起に繋げていきたい。</p> <p>【生徒指導】道徳心の育成、下工生の誇りと醸成を目標とし、問題行動の未然防止やいじめ対策に取り組んできた。問題行動の件数は昨年度と比較し、わずかではあるが減少傾向にあるが大きな事案も発生している。未然防止を強化したい。いじめ対策防止法に則り、いじめ件数は増加傾向にあるが、重大事案には至っていないので早期発見のため次年度も引き続きいじめアンケートを毎月実施したい。来年度も、様々な交流を通じて生徒のコミュニケーション能力の向上を図っていききたい。生徒の自己指導能力の育成を目標とし、ことあるごとにセルフチェックを呼びかけた。また、自己肯定感の構築のため行事で各種の役割を担わせ、生徒主体の行事運営を心掛けてきた。すぐに成果は出ていないが、来年度はより多くの行事で生徒が活躍する場を設けたい。</p> <p>【進路指導】この数年多くの求人や進学先の指定校推薦枠が得られている。また、3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。多くの生徒は自分の進路実現に向けて真剣に取り組んでいる様子である。来年度も引き続き進路指導部だけでなく学校全体で進路実現のためのサポートをしていきたい。</p> <p>【健康安全教育】年間を通じて教室の換気や健康観察等の感染症予防監査に留意し、個人及び集団感染の予防意識向上を目指した。11月頃から地域でインフルエンザが流行し始め、学校閉鎖や学年閉鎖措置をとる学校もみられたが、本校では下工祭後にクラス学級閉鎖措置をとったものの、その後は校内で感染が広がらなかった。大きな流行は抑制できたが、今後も教室の換気や健康観察等の感染症予防について留意し、継続的に指導していきたい。また、健康診断の結果、治療を要する生徒には、関係者(教職員・家庭)と連携しながら継続的に指導していきたい。</p> <p>【特色づくり】今年度も夏に異例の暑さが続いたので、熱中症対策に十分に講じた上で体育大会を行った。下工祭やロードレース大会についても、インフルエンザなどの感染症対策を徹底し、安全に実施した。次年度も熱中症や感染症への配慮を怠ることなく、学校行事を一層盛り上げていきたい。また、体験入学やキャリアアップセミナーを通じて、本校の特色や魅力を地元の中学校や地域に向けて積極的に情報発信していきたい。</p> <p>【業務改善】教職員の意識改革や効率的な学校運営の進展に伴い、学校行事や部活動などが活発化し、その結果として時間外在校等時間が増加している。このような課題に対応するため、年休の計画的な消化や代休の確実な取得などを推進し、働き方改革を一層推進していきたいと考えている。また、業務分担の適正化を図ることで、全教職員が働きやすい職場環境の整備に努めたい。ICTについては、授業や業務で活用する教員が増えているものの、学校全体の教育力を高めるためには、研修への積極的な参加を通じて、ICTの活用方法やスキルを向上させることが重要である。</p>	